

国内研修報告書

in 岩手

2025. 10. 22～23



目黒女性団体連絡会

目 次

2025年度国内研修概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
もりおか女性センターの施設について・・・・・・・・	2
もりおか女性センターの事業内容・・・・・・・・・・	4
もりおか女性の会との交流・・・・・・・・・・・・・・・・	6
米問題を中心とした課題について・・・・・・・・・・	8
女性農家との懇談・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
国内研修に参加して（感想）・・・・・・・・・・	13

2025年度 国内研修概要

- 1 実施日 2025年10月22日（水）・23日（木）の1泊2日
- 2 研修先 ○もりおか女性センター
○農民運動岩手県連合会
- 3 研修目的 ○米不足・価格高騰の問題等について産地の声を聞いて学ぶ。
○男女共同参画センターの施設見学と女性団体との交流を行う。
- 4 研修内容 <女性センター見学・女性団体との交流>
○もりおか女性センターの施設の説明、事業・運営の課題等を聞いた。
○女性団体「もりおか女性の会」と交流した。
<コメの問題について>
○米不足・価格高騰の問題や農業を取り巻く問題等について現状や課題などの話を聞いた。
○女性の米生産者から農業の実情について話を聞いた。
- 5 行 程 <1日目> 午後1時30分～ もりおか女性センター施設見学等
午後3時～ もりおか女性の会との交流
<2日目> 午前10時～ 農民運動岩手県連合会事務局長のお話を車で移動しながら聞いた。
午後1時30分～ 県南部の女性生産者訪問
- 6 研修参加者
郡 玲子 目黒母親連絡会
廣橋泰子 めぐろ学習グループ連絡会
栗阪順子 めぐろジェンダー平等の会
太郎良一枝 新日本婦人の会目黒支部
西尾安美 ウイメンズめぐろ

もりおか女性センターの施設について

所在地：岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目1-10 プラザおでって 5F

沿革 1994 年 女性センター建設に関する要望書を、もりおか女性の会が市議会に提出

2000 年 プラザおでってに盛岡市直営「もりおか女性センター」開館

開館時間 午前9時～午後9時30分（月曜日～金曜日）

午前9時～午後5時（土・日・祝日）

休館日 毎月第2火曜日、年末年始（12/29～1/3）

使用料 無料

施設の目的 女（ひと）と男（ひと）が、ともに参加する社会をめざして、女性をとりまく様々な問題を考え、解決するための施設。性別にかかわらず、すべての市民が気軽に利用できる。

施設の内容

①交流コーナー 少人数の打ち合わせや情報交換、交流の場、広々としたワンルーム。おおむね5名以上の団体に限り2テーブルまで予約可能。

②図書コーナー 女性問題をとりまく諸問題について学び、考え、力をつけるための図書や行政資料、映像資料を収集、提供している。蔵書は、8,483冊。

③生活アトリエ 男女共同参画社会実現のために活動している団体やサークルなど、会議や研修、情報交換および交流を目的とした活動など、おおむね5人以上で利用できる。また、生活に役立つ衣・食・住の体験もできる。

電磁調理器、ミシン、調理台、車イス対応調理台1台あり。

④子どもの部屋 子ども（未就学児）と保護者が、一緒にくつろぐスペースとして利用。室内には、ベビーベッド、簡易授乳スペース。子どもトイレがあり、主催事業等の保育の場としても活用している。

⑤相談室 個室の相談室が3室ある。

⑥起業応援ルーム芽でるネット 起業講座やパソコンセミナーなどの開催、起業や就職に関する個別相談、パソコン操作のサポート。企業や就職、IT活用のための本、雑誌を貸し出している。

利用時間：月曜～金曜 10時～12時・午後2時～5時

（毎週第2火曜日及び年末年始は休室）

（記録：西尾安美）



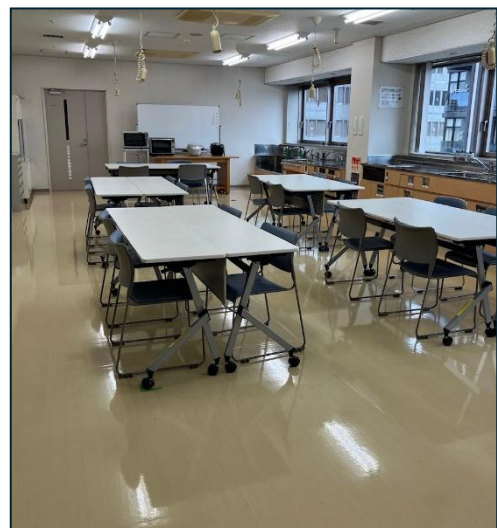
もりおか女性センターが入るプラザおでって



交流コーナー



図書コーナー（奥が交流コーナー）



調理もできる生活アトリエ



子どもの部屋



起業支援ルーム 芽でるネット

もりおか女性センターの事業内容

◎もりおか女性センターが持つ「5つの機能」

- ・学ぶ 学習・研修の機会の場合
- ・出会う・力をつける 活動促進・交流の場合
- ・悩み・考える 女性相談
- ・考え究める 調査・研究事業
- ・知る 情報提供・収集の場合

◎2024年度 おもな事業

啓発事業

- ・男女共同参画週刊もりおか展（参加者延べ人数：729人）
- ・もりおか女性センターフェスティバル2024（参加者延べ人数：382人）
- ・なくそう！女性に対する暴力2024（参加者延べ人数：2367人）

連携事業

- ・DV被害者対応研修
- ・女性のキャリア形成支援リカレントプログラム
- ・企業・市民向け男性育児休業取得推進セミナー 他

市民団体支援事業（市民グループ育成） 支援団体は公募で採択

採択団体のテーマ

- ・過去の災害から考える防災と男女共同参画
- ・私・家族が倒れたら介護はだれがするの？～介護保険を使って自分らしい暮らし方を模索する
- ・町内活動～町内会 女性会長さんに聞く～

起業・就労支援講座事業

- ・instagramで集客ビジネス活用講座
- ・女性起業芽でる塾（公開講座/連続講座）
起業に関する知識やノウハウを習得し、女性の起業を後押し
- ・就労支援講座

講座事業（男女共同参画の実現に向けての学習や情報提供）

- ・ジェンダー論講座 ・防災連続講座 ・ひとり親支援事業
- ・防災出前講座

＊リーダー育成を視野に入れた講座の工夫をしている。

相談事業

- ・ユースリーダー養成講座2024 ・生徒、学生のための人権出前講座
- ・おしゃべりルーム（誰からも批判されずに悩みや思いを「語る」「聴く」体験ができる場）
- ・ウイメンズサロン・ゆるり 毎月第4水曜日

・相談

月～金 10時～開設 1人50分 面談・電話・メールなど

相談室3 相談員3名

相談者は20～40代が多い 主に結婚・子育てについて

相談件数1440件 うち DV相談702件

令和4年から男性相談。月1回。 相談員は外部委託。

その他 L G B T相談、法律相談。

情報事業

・図書 蔵書点数8,483冊 貸出点数2,276冊 貸出人数1,384人

・ホームページ他 更新回数616回（ホームページ95件、instagram176件
X204件、芽でるネット141件）

・ニュースレター 年4回 各1,000部発行

・報道 取材記事・事業周知記事等 新聞・情報紙・テレビ・ラジオ

生理用品配布事業

指定管理制度

2006年指定管理者制度に移行、今期で5期目となる

職員 常勤12名、非常勤1名 （相談員3名を含む）

管理費

2006年6000万円代 今期 62,493,000円

人件費65% 施設費・運営費 35%

* 専門性を生かした事業運営、当事者ニーズに基づく事業の企画、女性の雇用創出ができるなど指定管理制度の利点がある。

* 制度が拡充してきているが、管理費が減る傾向にあり、対応する現状に追いつかない。経費削減、サービス向上のなか、人件費の捻出に苦慮している。

* 職員応募理由においても「ジェンダーの仕事に携わりたい」と応募してくる人が増えてきた。人材育成のため、内部研修・外部研修への参加。

* 自己研鑽として研修補助費3万円を支給している。

（記録：太郎良一枝）

職員から説明を聞く



もりおか女性の会との交流

1 もりおか女性の会の出席者

十文字さん：もりおか女性の会副会長

三田村さん：もりおか女性の会事務局担当、新日本婦人の会所属

坂本さん：新日本婦人の会

三好さん：日赤ボランティアの会

2 団体の紹介

①もりおか女性の会

1992 年 4 月結成、当初 50 団体が所属

2000 年 6 月女性センター開館、所属団体は 32 になる。開館の際 10 万円寄付し、25 周年記念にも 10 万円寄付してセンターに喜ばれた。

所属団体：現在は、会員の高齢化、センター開館や事業目的の達成により 6 団体に減少している。共同参画もりおかの会、生協、着物を愛でる会、新日本婦人の会、助産師会、日赤ボランティアの会

運営：総会実施、定例会は行わず、事業ごとに協議している。

会費：団体 1,500 円、他に映画会を行うなど資金活動をしている。行政からの助成金を受けない。

事業：「コロナとわたしたちの暮らし」「女性の力でまちがもっと元気になる」…女性副市長の講演会などを行う。

参画：男女共同参画審議会、表彰選考委員会、都市計画審議会、県立病院運営協議会に委員を出している。

②日赤ボランティアの会

日赤奉仕団の活動に参加、協力している。災害時の救護活動、防災訓練、募金活動、赤十字新聞の発送作業など。独自活動として、養護施設の子どもの靴下や毛布への名前縫い付けなどの裁縫活動をしている。

③新日本婦人の会

年 1 回戦争と平和関連の映画会を開催。母親大会参加。乳幼児医療費や学校給食の無償化運動を行っている。個人的には新婦人の活動が子育ての役に立った（坂本）。

3 懇談

①センターの名称変更について

女性センターを男女参画推進センターに変更しようという動きがあったが、市民の意見が賛否半々だったので、現状維持になった。目黒区でも 1992 年の開館当時は、女性情報センターだったが、2003 年に条例の名

称に併せて男女平等・共同参画センターに行政が変更した。私たちは、まだ女性差別は解消されていないので、女性を残したかったが、このままでは男性が利用しにくいので、予算がつけられないと言われて承諾した。その際、平等を入れることには拘った。

②助産師会とは

「助産師があるということは、まだ盛岡市には家庭でお産をする人がいるのですか」「そういうことではなく、助産師会は病院勤務の助産師さんの会です。今病院では産科医になり手がなく、困っています」「東京でも同じ悩みを抱えています」

③女性差別撤廃条約「選択議定書」について

めぐろジェンダー平等の会は、2019 年の団体結成以来、日本政府に対し「選択議定書」を批准するよう要請する運動に参加している。幸い、目黒区議会は 2022 年 6 月に全会一致で意見書提出にこぎつけた。地方議会にも意見書を出していただくようお願いしている。岩手県では、県議会からは意見書が出ているが、市町村からはまだ出していない。これに対し、盛岡側からは「県に意見書を出したときに関わりました」「盛岡が先陣を切らねば」などの声が挙がった。

(記録：広橋泰子)



もりおか女性の会の方々、女性センターの職員と

コメ問題を中心とした課題について

農民運動岩手県連合会の岡田事務局長からお話を聞きました。

○用水路と水田

ダムから引いた農業用水のための取水堰（鹿妻穴堰頭首工）を見学した。岩手県には、南北を流れる北上川、東西を流れる雫石川があり、そこから離れた地域の平野に江戸時代から用水路を網状にめぐらせ、米がとれるようになったとの説明があった。

水を管理するのは、「土地改良区」という名前のところで、農業関連の土木水利管理組合のようなもの。県内に7つか8つある。連合体が土地改良事業団体連合会で、一定の力を持っている。

山の方では、昭和50年代くらいまで米が作れず、雑穀を食べていた。電気がくるのも遅かった地域があり、都市部との格差が大きかった。それらの地域では高齢化、過疎化がすすんでいる。



鹿妻穴堰頭首工のところで説明を聞く



取水堰から引かれた用水路

○水田の転作・米の価格の問題など

減反政策などでの転作は、大豆、麦、牧草、そばなど。麦は梅雨の影響を受けるので、大豆への転作の方が多い。米の代金が上がって、主食用米のほうが、採算がとれるようになっている。大豆、麦の自給率も解決が必要だ。昨年夏からの米不足で、県内でも5キロ5,000円近くで売られている。

米不足については2023年の夏前から話は出始めていた。民間のシンクタンクの調査で、米の生産量と食べる量のバランスでは、供給と需要が2030年に逆転すると言っていたが、それが予定より早まったというのが実感だ。政府は、需要が年10万トン減るといって、22～23年に減反を強化していたため、24年に一気に米不足となった。

以前、生産者は60キロ1万3千円くらいで売っていたのが、9,000円台に落

ち込んだ。19年くらいから、肥料等資材が値上がり、トラクターが600～700万円、コンバインが700～1000万円する中で、18,000円～20,000円は必要と言われていた。今は、60キロ3万円くらいでないとやっていけない状況だ。兼業をしないと成り立たなくなっている。県内の農地は平均3～4ヘクタールで、米だけだと大変だ。政府統計は、古い機械を使って家族に十分給与を支払わずに頑張っている農家の実態に基づくものであり、本当に生活に必要なものが保障されるようになるとうい。



稲刈り後の田んぼが広がる景色

○区画整理と農家数の減少について

区画整理で水田を広く四角にすると、10アール当たり300万円くらいかかる。機械が入れられ、作業効率も上がるので、集落営農組合を作ったり、法人をつくったりして地域全体の土木作業として行う。それに対して国の補助金が出るが、一定の条件があり、担い手を絞り、その後はその人が中心に生産を行わなければならない。国として水田を大規模にすることが目的だ。集積率の目標があり、それが高いと100%補助に近づくという仕組みになっている。まさに農家のリストラ施策だ。大きめのコンバイン、田植え機を地域で共同して買うときも、補助をもらうには作業者の絞りこみが要求される。担い手の高齢化等で農家が減っていると言われるが、必ずしもそれだけではなく、国が農地の大規模化をすすめる施策の結果だ。

これらの事業は、「土地改良区」が主体となり農家へのサポートを行う。日本の農業予算は土木関係に偏っているといわれるが、土地改良区が行う区画整理事業に多く使われている。この組織は農協などと比べ保守的で、女性の参加が大分遅れている。

民間会社が農地を借り受けて大規模化を行う例もある。あくまでも借りて行うもので、株式会社の農地所有は基本的にはやらないことになっている。

○温暖化の影響

今年は気温が 38 度になることもあり、高温障害がみられる。果物、特にリンゴの被害が大きく、色が悪くなり、味も変わってしまう。早く芽が出て花が咲いて、そのあと遅霜にあったりする。

○稲は家畜用飼料としても活用

牧草を植えているところもあるが、稲を青刈りして発酵させ家畜用飼料として活用している。でんぷん質も含むいい餌になる。飼料穀物は輸入が多いので、青刈り稲は自給率向上につながる。

青刈り稲の飼料



○移住者への支援

新たに農業を始める移住者もいるが農家の減少に追いつかない状況だ。農民連では、新規就農者に技術や経営面で指導援助している。

○その他

田んぼからの雪の吹込み防止のため、12 月くらいから道路に柵が設けられる。柵の設置や除雪作業は地元の土木会社が請け負うことが多く、農家の冬の間の収入になる。

イノシシ、シカ対策で電気柵をつくっているところもある。電気柵の周りはまめに草刈りをしないと漏電してしまうので大変だ。

北上市、奥州市のあたりは、自動車工場や半導体工場ができていて、雇用が安定している。しかし県立病院が撤退し、産婦人科の病院がなくなったため、若い人が増えても、子育て環境は整っていないようだ。

県の南部は、福島第一原発事故後、風向きの関係で放射能被害があり、キノコ、山菜などが出荷制限を受けた。

(記録：郡 玲子)

農業生産者との懇談

岩手県南農民連 橋本さんご夫婦と

橋本さん一家の耕作地は、夫婦で米が7ヘクタールの他、二人の息子さんが、別世帯ですが隣に住んでいて、ピーマン、さつまいも、ブロッコリー、トウモロコシ、花などを作っています。米は、30㍏を200袋生産しています。

後継者がいるので安心ですが、この地区では、以前は20軒あったのが、今米を出荷しているのは12～13軒で、後継者はほとんどいなくなっています。人手不足もあり、隣町からアルバイトを頼んだり、土日には高校生も頼んでいます。

基盤整備の話も進んでいますが、国の予算がなかなかつかず、今年ようやく工事に入りました。後継者のいないところでは、基盤整備を進めた後は、法人に貸すはなしになっています。生産者が集約されて、大規模化と、農家の減少がすすんでいます。基盤整備は、出来上がるまでに10年かかります。20年後には、農家はどうなっているのか想像ができません。

～目黒でも、米不足の時には、ほんとうにスーパーからお米がなくなりました。値上がりがすごくて、新米が出ても上がり続けています。備蓄米の補充がどうなっているのか心配しています。～

岩手では、備蓄米がたくさん並んでいました。我が家も自分たちのお米がなくなりそうになって、試しに備蓄米を買いましたが、味は遜色なかったです。

～農家として適正だと思う米の価格は？～

今は30㍏1万5千円以上で出していますが、うちでは1万円あればなんとかなるのではと思っていますが、1～2ヘクタールの小さな農家では、1万5千円くらいでないとやっていけないと思います。

～コメ問題は、農家だけでなく消費者の問題だと思います。消費者がもっと自分たちのこととして考え、農家には米を作り続けられるようなシステムが必要だと思います。軍事費を増やさず、農業や暮らしに使ってほしい、国民の食

を守ってほしいと思っています。～

みなさんの中でも、考える人を広げてほしいと思います。何かあつて時に、まず困るのは、消費者のみなさんです。

～ざっくばらんに、話していただき、とても楽しい時間でした。ありがとうございました。～

(記録：栗阪順子)



橋本さんの家の前で懇談



国内研修のリーダーとなって

郡 玲子

今回の女性団体連絡会国内研修について、テーマは「米の問題」と決まったのは早かったのですが、どこに行くか、誰がリーダーとなるかはなかなか決まりませんでした。私自身はいろいろな活動の予定や家庭の事情もあって、参加は無理、と思っていましたが、今年度の代表でもあり、何とか限られた日程のなかでなら実現できるかなと覚悟を決め、訪問先について調べ始めました。周りのかたのアドバイスもあり、岩手県の農民連の方に連絡がとれたところから第一歩を踏み出しました。その後メンバーも決まり、行程を具体化し、それぞれの役割分担に助けられて、2日間の研修を無事行うことができました。

もりおか女性センターは、いろいろな市の施設が入っている「プラザおでつて」という複合施設に入っています。1階には農産物等の直売所がありました。女性センターは、全体的にオープンなスペースとなっていて、生活アトリエという部屋も含め、使用料は無料で、誰でも利用しやすい施設だと思いました。また、NPO法人が指定管理で運営していますが、専門性、継続性という点で優れていると感じました。

女性団体との交流では、このセンターも女性たちの長年の運動が実ってきたこと、今でも女性たちが行政とも協力しあって支えていることがわかりました。このような関係が大事だと思いました。

米をはじめとした農業の問題は、日ごろから関心がありましたが、今回、現地に行って、稲刈りがほとんど終わった緑の平野を移動しながらお話を聞けて、単なる知識としてではない理解がすすみました。なかでも、区画整理（基盤整備）事業により、農地の大規模化推進政策のもとで国が補助金で誘導して「集約」を進めさせ、その結果、農家の数が減っているというお話には驚きました。農業従事者の減は、後継者がいないという理由だけではなくたのです。区画整理により機械が入りやすくなるという利点があるので、農家の声を聞いて、適切な補助をすべきだと思います。

また米の価格について、農家にとっても消費者にとっても安定したものとするためには、中小家族農家への所得補償などの支援こそが大事だと思いました。

岩手県は広く、もとは南部藩と仙台藩だった地域で、中心となる作物にも違いがあり、文化やことばの違いもあるとのこと。県南のほうでは、日常的に餅を食べる文化があるそうで、立ち寄った農家レストランにも「餅定食」というのがありました。

研修を受け入れて下さった関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

コメ問題から女性差別撤廃条約「選択議定書」まで

広橋 泰子

昨年来、日本列島はコメ問題で沸騰している。生産者は、時給 10 円では生きていけないと「令和の百姓一揆」を起こし、消費者は、スーパーの棚にコメがない、在っても 5 キロ 4000 円代では手が出ないと嘆いています。どうしてこんな事が起きたのでしょうか。日本人の主食であるコメが、適正価格で安定供給されるには、どうあったら良いのでしょうか。

今年の国内研修のテーマは、コメ問題にしようと意見が一致した。

まず、コメ農家を訪ね、生産者の声を聴こうと、研修先を岩手県盛岡市にある農民運動岩手県連合会（以下、農民連）所属の女性の生産者、橋本さん宅に決めました。橋本さん宅まで、農民連事務局長の岡田さんが車で送って下さり、車中で岩手県の農業事情についてお話して下さった。それによると、岩手県の農業はコメ作が主で、大豆、園芸も盛んとのこと。年々生産者の高齢化が進み、後継者がいないため、離農していく農家が増えて大規模工業団地を誘致する計画もあるが、産婦人科医がいないため、若い人を呼び込めないと言う。この事は先に訪問した「もりおか女性女性センター」でも同じ事を聞いた。産婦人科医になり手がなく、若い人が住める環境整備ができないのが悩みだと。産科医不足は、大都市東京にも共通しているが、地方都市は、より深刻なのだと思います。

橋本さん宅では、ご夫妻で対応して下った。コメ作は、7 ヘクタールで主に夫妻が担当している。人手が必要な時は高校生のアルバイトを頼んでいる。40 代の息子さん 2 人は、主にピーマン作りをしている。他に花作りもしていて、大輪の白いダリアが咲き誇っていたのが印象的だった。

「米価は、どの位だったら農家は生活できますか？」と橋本さんに聞いたら「20000 円あれば」とおっしゃった。多分、1 俵 60 キロ当たり 2 万円のことでして憶測すると、私たち消費者には、5 キロ 3000 円代で渡る額ではないかと思った。これなら現在の状況から考えると、消費者も納得できる価格ではないかと思う。政府は、“米価は市場が決める”といているが、市場原理に任せ放しにせず、責任を持って調整してほしい。

今回の研修で、私にとって最も衝撃的だったのは、もりおか女性センターの職員の方々が女性差別撤廃条約選択議定書に関心を持たれている事でした。また、交流させていただいた「もりおか女性の会」の新婦人の会所属の方が、岩手県議会が「選択議定書」批准について国に意見書を提出した際に関わったと伺い、東京を中心に全国展開している運動が盛岡市でも周知されていることを

知り、大変嬉しく思いました。更に、岩手は市町村議会では意見書が出ていないので、「盛岡市が先陣を切らなければ」と言っていたのが私の心に強く刺さりました。



橋本さん宅の庭のダリア

自然豊かな日本の農業を守りたい！

栗阪 順子

1泊2日の岩手の旅、大変充実した、よい研修旅行でした。

「もりおか女性センター」では、規模の大きさと仕事範囲の広さに驚きました。施設も大きいのですが、それより職員の人数の多さです。特に相談員が3名いて、年間の相談件数が12,000件という数にびっくりします。地方でも、女性の起業の願いが多く、企業支援の取り組みが、私には新鮮で、興味深かったです。

また、懇談してくださった所長、副所長が、女性問題全体にたいする問題意識もしっかりしていることにも感心しました。センターの活動を応援している女性団体との交流も、とても楽しく、有意義でした。感謝します。

もう一つは、昨年夏以来のコメ不足と米価の高騰問題です。食の問題は、ほんとうに大切な問題です。安全な食料を、安心して買うことができるのは、だれもが願っています。

私は、米・野菜・肉などを産直運動で買っているのですが、米は年間契約のため、昨年は年間通して購入も安定し、米価も高騰前の安価で購入できて、とてもラッキーでした。今年10月からの米価格は、昨年に比べると1.5倍ほどになりましたが、農民連の方に聞いたところ、産直の米については、値上げ分はほとんど生産者にわたっているとのことで、大変うれしく思いました。普通にスーパー等で購入した場合、生協で購入する場合などの価格の仕組みなども聞いてみたかったのですが、機会がありませんでした。

最近では、米価が安すぎて、農家の後継者がどんどん減っていることや、農産物の輸入がふえていることなど、問題が山積みです。減反で、不耕作地が続く景色を目にして、悲しくなります。

目黒区でも貴重な農地を、区民に“ブドウ狩り体験”ツアーを実施したり、保育園で“サツマイモ掘”体験をしたりの機会を作っていて、子どもたちもとても喜んでいきます。

私は、緑も、水も土も豊かな日本こそ、農業を大切にして、日本の自給率を高めるだけでなく、世界の食糧不足にも貢献すればいいと思っているのですが、今後も、生産者との交流の機会などもつくりながら、農業問題も関心を持っていきたいと思っています。

目黒女性団体連絡会国内研修に参加して

太郎良 一枝

女性センターは複合施設の 5 階にあり、エレベーターを降りると穏やかな空気がながれていて施設全体、利用者に対する心配りを感じました。

生活アトリエ（調理室）の入り口ではスリッパへ履き替えるのですが、長椅子が置いてありました。雪の季節は長靴をはくので椅子があると履き替えやすいためとのことでした。子どもの部屋は曲線で作られており、子ども用のトイレや触ってみたくなるキャラクターの消毒薬など、親子がリラックスして利用できる工夫を感じました。廊下にはフェスティバルで上映した映画の紹介と観覧後の感想等が張られていました。その数の多さに女性センターが積み重ねてきた活動の成果の一端を見た気がしました。相談事業の相談件数 1440 件と多いのもうなずけました。随所にみられる様々な工夫も事務的ではなく利用者のニーズを取り入れ、職員の専門性を生かした取り組みがなされていると感じました。

翌日はコメ生産者との交流。県中部から南部の水沢地域の訪問宅まで田んぼや地域の特徴などの説明を聞きながら移動。道路の両側には収穫の済んだ田んぼの他、稲穂の倒れている田んぼが目につきました。耕作を頼まれて大規模化をしたものの、手がまわらず稲が倒れている状態ではとのこと、農業従事者不足なのでしょうか。

訪問地域でもほとんどの農家に後継者がなく、10 数件の農家で土地改良事業を進めており、改良後は 1 軒と 5 組合が耕作することで、補助金をもらったそうです。事業が完成するのが 10～20 年先でその頃どうなっているかの見通しが持てないでいるとのことでした。農業経営の不安定さを感じました。

国の農業予算は大規模な土地の改良事業に補助金が集中しており、その条件は農地の土地改良・集積化を行い、大規模機械の導入・担い手少人数化とのこと。ニュースなどで耳にするスマート農業のことだと思いました。

岩手県の農業は米作中心で 1 軒あたりの耕作面積は 3～4ha の小規模農家が多く、後継者がいないが農業は続けたいと思っている農家が多いそうです。農家のような第一次産業は、体が動けるうちは続けられる業態です。しかし、現在の仕組みは農業を続けたくても田んぼを使い続けられない、生業を引き渡す選択をしなければならない状況を生み出しているように思えました。

大規模になるとおのずと農薬や化学肥料に頼る率が高くなる可能性があり、30ha を超えるとかえって生産コストが高くなるともいわれています。気候変動に対応し、リスクを分散する観点から、大規模農家も小規模農家も経営ができる農業予算の使い方を構築してほしいと感じました。

2 日間中身の多い研修の機会をいただけたことに感謝します。

国内研修に参加して

西尾 安美

昨年から米不足が騒がれている中、このお誘いがあり、初めての参加です。

出発前には、「盛岡市街に熊が出た」のニュースもあり、なんとなく不安を抱えながらの研修でしたが、「もりおか女性センター」の 5F エレベーターを降りたとたん、ワンルームの広々とした「交流コーナー」が目の前に広がり、気軽に立ち寄れる雰囲気が出て、数名の方が談笑していらっしゃいました。そばには、ポットとインスタントの飲み物スティックが常備されており（すべて無料）、ゆったり飲み物を飲みながら過ごす事が出来ます。目黒にも欲しいなと思いました。女性センターはとても充実していて、13 名の職員の方がおられるとの事なので、女性支援もこまやかに手が足りますね。

2 日目は農民連の岡田さんの車で、ダムや江戸時代に作った鹿妻穴堰頭首工など歴史ある場所にも案内してくださり、先祖の方々の苦勞がしのばれました。

今の農業は米以外に、麦、大豆、牧草と転作を余儀なくされており、見渡す景色が、米は収穫が終わっていましたが、大豆は枯れた姿のまま、その多さに驚きました。白いテープでグルグル巻きにされた牧草は、「牧草」と「青いうちに刈られた稲」があるそうで、その用途も栄養価の違いから違うのだとはじめて知りました。

橋本さんとのお話の中で、「東京で備蓄米が手に入らない。一度だけ買えました」と告げると、「こちらのスーパーに山ほど積まれていたので、私もどんなものかと買いました」と言われました。どうなっているんでしょう。

生産者にとっても消費者にとっても、安心出来る価格は、財政出動による生産者への直接支援（所得補填）を行い、消費者には安く届くようにする、両者のギャップを財政で埋めるしかないと思いました。市場経済にまかせずに。



岩手銀行赤レンガ館

目黒女性団体連絡会国内研修報告書 2025

発行 2025 年 12 月 15 日

編集 目黒女性団体連絡会

代表 郡 玲子